福井県立勝山高等学校学校評価委員会

令和4年度 勝山高等学校 学校関係者評価書

観点	・学校評価書の成果と課題が適切かどうか ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か ・学校評価アンケートの実施方法と内容に関する問題点について ・その他
評価者	PTA会長・PTA副会長（3名）・同窓会長
ご意見 （教育課程・ 学習支援）	・カリキュラム・ポリシーに沿った授業実践への意識水準は高く、更なる向上を期待したい。ただし、もう少し定量的な判断基準が必要である。 ・ICTデバイスを活用した学びについて、実際に利用している生徒の意識は高いが、保護者にとっては学校の取組状況の把握が困難で評価がしづらく、結果的に「おおむね満足」に回答が集中した。この取組項目では当事者である生徒の評価が大事で、保護者の評価に拘る必要はないが、保護者の評価を求めるのであれば、公開授業や広報などで取組みを知ってもらうことと、アンケート質問項目の表現を改善して理解しやすいものに変えることが必要である。 ・ICT機器を用いて（大学など）外部の先生の授業を受けることができれば、もっと視野が広がると思われる。
ご意見 （生徒支援）	・勝山高校の生徒の容儀や挨拶には素晴らしさを感じ、満足できる。生徒の主体性を引き出す取組みにも成果が見られる。今後も維持・継続されることを期待する。 ・生徒の人間関係は概ね良好だと思うが、多様性の時代の中で「生き辛さ」を感じている生徒も多いはずである。サポートやアドバイスなどをお願いしたい。 ・人権意識を育む取組みにおいて、教職員のほとんどが肯定的な評価をしている一方で、生徒や保護者には否定的な評価をしている人が一定数いる。その原因を探る必要があるのではないか。
ご意見 （進路支援）	・進路意識の高い生徒への支援は適切に行われており、その取組姿勢が生徒の結果に反映されている。進路意識のあまり高くない生徒や卒業生（浪人）に対しても、親身に接し、支援をお願いしたい。 ・進路選択の過程で生徒の主体性を育むというのは、なかなか難しい問題である。本人の希望と実力の折り合い、本人の希望と保護者の経済力の折り合いをつけるための相談の場を設けてほしい。 ・オープンキャンパス等への参加を１年次から推進しているのは良い。意識高揚の効果もある。コロナウィルス感染症拡大による制限が緩和され始めているので、来年度以降参加者が増えることを期待している。ただし、生徒の自主性に任せるだけでなく、学校側からの積極的な働きかけも必要である。
ご意見 （保健管理）	・学習環境美化への取組みは適切に行われており、校舎の老朽化による負のイメージはあるが、校舎内は概ねきれいに保たれている。今後の継続を期待する。 ・困りごとや悩みごとについて、相談しづらさを感じている生徒や保護者が意外に多く、保護者については４分の１弱が否定的な回答をしている。原因を分析し、相談しやすい環境作りに取り組んでほしい。 ・SNS等での誹謗中傷の問題はどの学校でも起こりやすいので、問題が発生した場合に精神的ケアが行える環境も整えてほしい。
ご意見 （ 校外との連携・ 情報の発信）	・探究特進科設置初年度で、新たに取り組んだことが多かったと思われるが、来年度は単なる今年度の取組みの繰り返しではなく、新たに工夫を加えた取組みとなることを期待する。 ・校外と連携した取組みは一般市民に最も理解してもらいたい項目だが、現実にはまだ認知度がかなり低い。生徒の活動の場や連携先を広げたいのであれば、認知度を高める取組みが必要である。 ・探究活動は大切だが、持続的な取組みにするためには、生徒や教職員の負担を増やさないような目標設定が必要ではないか。
学校関係者評価の結果をふまえた今後について	本校の取組に対する保護者・同窓会・地域住民からの期待の高さを強く感じる一方で、認知度を高める点では大きな課題を残した。これまで行ってきた広報活動を量的に拡大することは現実的ではないので、情報提供の仕方を改善することで、効率的に認知度を高めたい。今後は、生徒の活動に対する制約が低減すると期待されるため、生徒が自主的に活動できる機会を増やし、本校が目指す生徒像に近づけるよう支援したい。